

一般社団法人栃木県バスケットボール協会
2019年度 臨時理事会議事録

日時:2019年5月7日(火)

会場:文星芸術大学附属高校研修室

出席:(理事)17名 阿部泰紀、上野秀夫、小曾戸和彦、片桐晃、遠藤嘉津敏、高橋哲夫、鈴木克美
福田悦男、直井秀幸、新村雅司、日向野信行、渡辺諭、益子基久、日向野剛
山田将樹、佐々木清美、香山孝之(特任)

欠席:(理事)4名 菊地宜秀、佐藤智信、前原延之、阿久津宏一、千村隆(特任)
(監事)2名 井上尉央、荻美紀

1 あいさつ

阿部会長:臨時の招集に感謝する。よろしく審議願う。

2 報告事項

(1)各種大会報告

ア 白鷗大男子部:関東学生トーナメントにおいて優勝した。

(2)その他の報告

ア BREX関係:CSにおいてSFで千葉に2敗してしまった。

イ 審判委員会:前回の理事会で承認いただいた3級インストラクターの推薦について、中体連から1名追加があり、追加申請した。

3 審議事項(議長:会長)

定足数について:理事総数20名、内出席者16名で、本会議は成立する。

議事録署名人:BREX 山田将樹 氏と 指導者 益子基久 氏 にお願ひする。

(1) U16の海外遠征の再考について(強化部)

○3月の理事会で決議されたU16男子の韓国遠征とは別にして、U12から強化を図ってきた最終段階として男女の海外遠征を実施して検証したいので再考願ひたい。

○女子スタッフの立場として、今までの韓国遠征には女子が実施していないので違和感があった。女子の強化についても、同じ目線で考えてほしい。

●意見の集約

- ・強化スタッフのやりやすい環境が必要
- ・国内での強化に重点を置き、成果が上がったうえで海外遠征を実施していくのか望ましい。
- ・ユース育成事業の確認として海外遠征を位置づける。
- ・強化策として海外遠征が必要なのか。
- ・海外遠征を計画するのなら、単にゲームだけではなく、指導者の講習もセットし方がよい。
- ・国体のための強化なら国内でもよい。
- ・国体後の海外遠征でもよいのではないか。
- ・個人負担が多い。
- ・海外遠征は、県内に残ってプレーする選手の励みになる。
- ・個人負担が多く財源確保も重要。
- ・何のための事業なのか、強化の方法の一環として海外遠征が必要という理由が納得できるか。
- ・海外に行くまでにどれだけの強化ができたのか、過程が大切。
- ・この計画は継続するのか、今年だけの計画なのか。
- ・実施の場合、検証結果をU13の強化に繋げなければならない。
- ・海外遠征の意味は大きく、指導者養成にもつながる。

採決方法:①無記名で、投票用紙に○(海外遠征を実施する)、×(海外遠征を実施しない)を記入する。

②採決時点の出席理事14名(議長は除く)、特任理事1名の計15名による投票とする。

③同数の場合、議長に一任する。

投票結果:○8票、×7票

—海外遠征を実施することで、承認される—

○実施した結果を、きちんと検証する。

○検証結果は、9月の理事会に提出する。

○会長より:個人負担については、保護者と面談して、納得した形で実施してほしい。

4 その他(その他なし)

5 あいさつ

小曾戸副会長:○長時間にわたる、慎重審議に感謝する。

○これを機会に、「いちご一会国体」の原動力になればと思うので、よろしくお願ひする。